

# 寺願本東ほろ

11  
月号

No.159  
November  
2011

「つながり・いきる・しぜん」教化テーマ



今回のインタビューは札幌市米里で農業を営む大屋久さんです。農家に生まれ、ずっと農業を家業としてこられました。札幌の名産であるタマネギ栽培の話や多くの同業者が苦しむ被災地への思いなどを聞いてみました。

山鼻支院総代 **大屋 久さん**

お寺との関わりはどのようだったからですか。

祖父が昭和5年に亡くなった時からだと思いません。うちは分家でしたが、親が用意してくれた仏壇があり、祖父の命日28日と祖母の命日2日に山鼻支院からお参りに来てもらっていました。もともとは新潟県から北海道に来て初めは石狩に入りました。そこから別院の近くに家を構

え、一緒に来た兄弟は道内ばらばらに散っていったようです。

実家は昔から農家で私は昭和20年、終戦の年に学校を卒業してから家業の手伝いを始めました。南25条の土地でほうれん草、大根、トマト、ナスなどを作り朝市に売りに行っていました。我が家の土地は自衛隊用地として買収され、今の白石区米里に引っ越しまし

## 御門徒インタビュー

### 農業やりながら念仏 放射能汚染農地かわいそう



プロフィール  
大屋 久 (おおよ・ひさし)  
昭和5年生まれ  
●山鼻支院総代

た。あの広い自衛隊用地は昔、サツポロビールのホップ園だったところ。盆と祭りと正月しか小遣いが貰えなくて、家の手伝いをやりながらホップ園にアルバイトに行っていました。電信柱ぐらゐまで伸びた蔓から大人が切って落とす実の花を取る作業です。自衛隊が来たのが昭和

28年ころで、馬を引いて砂利や鉄筋を運搬し兵舎を建設する仕事もやりました。今農家が抱える問題として高齢化や、後継者不足がいわれています。札幌も例外なくそうだね。後継者がいない。農家の人の平均年齢は70歳に近いです。縮小されていく時代の波で農家を続けるといっても都市部では出来なくなると。郡部へ移動して行かなければ続かない。例え後継者がいても失敗すれば親の責任にもなるし、職業を変えていかなければならぬ。そういう意味でなかなか後継者は育たないと思います。

## のんのおさま描いたよ抱いてね



「のんのおさまの絵を描いたよ」大谷幼稚園の園児たち

えっ！一斗缶に人の骨が… 怖いテレビ報道を見たあと久しぶり祖母と近くの寺へお経には興味はないけれどシヨッキンクな恩徳讃の詩骨をくだけでも謝すべし；骨折しただけでも痛いのに祖母は「親鸞が釈迦の教えに出遇って感謝せずにおれない」という比喻だ」と話すクレヨンで描いた仏さま… 慈悲深くお母さんそっくり泣いたら抱きしめてくれる尊い命 しっかり生きます本堂に飾って「ありがとう」

それから耕作放棄の問題もあります。作物を作っても採算があわないので、農地が草ボウボウ、放棄して固定資産税も宅地並みの課税になっていってしまう。

《2面に続く》

## 法話「念仏を称えれば浄土の平等に」 報恩講「満堂にひびく北の念仏」

3 面  
4・5 面

「つぼろ東本願寺」が隔月刊のため、先号の発刊月の出来事を記事にすると、何だか旧聞の感がするが：去る9月9日午前9時に当別院の鐘楼堂の大鐘が29発、正に「正覚大音響流十方」と札幌ススキノの町に響き渡った。絶対に「核兵器をつくらず、もたず、もちこませず」。二度と日本に、いや世界に戦争の無い、人間として人間らしく暮らせる社会を目指すことが大切だ。日本国憲法第9条を守る「札幌くらしの

## 雲龍柳

九条の会「主催による「平和を念願する九条の鐘」が一人一打、心を込めて打ち続けられた。開会にあたり世話人代表が「時あたかも、昨日、現内閣の重要閣僚が、今、福島原発で日本中が大混乱している時に、日本の自衛隊も国連要請により海外に派遣された場合、他国と同じ、ある程度攻撃可能な『法』に改めるべき」とも視野に入れた論議が必要だと外遊先で発言した。私たちはこのことを重く受け止めていかなければならない」と熱く語った。▼なにより大戦後66年も

過ぎれば、「喉元過ぎればなんとやら」時と空の移り変わりはあれど、いかに変わろうとも決して変えてはならないものがある。▼当別院の梵鐘に次の如く「大無量寿経」のお言葉が力強く重く刻み込まれている。

「天下和順 日月清明 風雨維持 災厲不起 国豊民安 兵戈無用」

これは「この世は本来平和で、太陽も月も明

「萬却法器 再鑄 大鐘 共鐘一聲 朝響夕刻」

これは「永遠に仏法を響かせる鐘を戦後再鑄し、朝な夕なに正法を告げる」と、時を伝える仏具とあった。









# 112年前、説教所として開く

## 知恩寺で先代の慶讃法要

### 親鸞の750回忌法要も

6月26日、新ひだか町三石の知恩寺で亀田浄住職のもと慶讃法要が午前、午後と2部に分かれて厳修された。170名以上の御門徒で満堂の中、午前の部は知恩寺第2世住職、亀田覚浄氏の50回忌法要並びに坊守、重尾氏、衆徒、祖印氏の

1899(明32)年8月、この地に説教所として開かれた。1910(明43)年10月に亀城山知恩寺として、寺号公称の許可を受けて100年余の時を重ねてきた。「草木深き荒地で民家も少なきこの地での開教。寺院建立に尽力された多くの御門徒方々のご厚情を思う時、終生忘れ得ぬ志である」と



法要後は大谷大学名誉教授の幡谷明師を招いての法話。余興では「ひよつとこおどり」や「バイオリン演奏」で参詣者が楽しんだ。午後1時にはお寺から300名ほどの「みついしふれあいプラザ」から好天気の中、約30名の稚児行列のパレードも行われた。

## 浄土の荘厳としての仏花

毎年このことながら、真宗門徒にとって一年の節目として勤められる報恩講の準備は多忙を極める。本堂はもとより、諸殿、庭園、外溝にいたるまでの清掃、仏具のお磨き、役員との司会進行の打合せ、お齋当番の献立会議等、慌しさの中で準備が進められていく。中でも、特に内陣の仏花を立てることに要する時間は、殊更に長時間必要となる。

報恩講の仏花は、盛花とは趣を異にした立花式の挿し方が主となるが、座敷飾りではなく内陣荘厳としての立花であるため、一般のいけばなの伝承とは異なる。それぞれの寺院を場として、僧侶から僧侶、また、ご門徒からご門徒へと、伝承されてきたものである。立花の形態も様々で、松一色で立てられたものや、

自坊では報恩講の10日前に花材の打合せを行なっている。その年の天候状況によって入荷できる花材も異なるためであるが、そんな中、生花店から突然の連絡が入った。先般の台風の影響で被害を受け、必要なツゲやソナレが出荷できないと荷主から連絡が届いたという。急遽、新たな荷主を探して翻弄する始末で、徹夜で花立に追われた。ただ出来上がった仏花



御遠忌宿所伝導スタッフによる仏花

すものなど、仏徳讃嘆のなかで伝承されてきた。は、内陣に供えたところから、それは浄土の荘厳として、目覚めるべき世界を私自身に呼びかけて

いる表現であることを、毎年、仏花の伝承の中に思い知らされている。《北第3組 秦 秀円》

午後2時、「宗祖親鸞聖人750回忌法要」。教務所長、楽僧等、25名程の参勤法中によって雅楽と共に盛大な厳修となった。厳かな雰囲気の中、内陣をぐるぐる回る稚児たちの中には照れくさそうにおどけて見せて、参詣者を和ませる場面もあった。

宗祖聖人が滅されて750年、「本願念仏」の他力の大道の法灯が、知恩寺を築いた先代方々から継承され現在に至っている。

幅広い分野で賞賛される読者から声も寄せられている。俳優の児玉清氏や作家の田口ランディ氏、筑波大学名誉教授の今井雅晴氏も「現代は心の荒廃がいわれる時代である。その時代の導きとなる親鸞を、さらに多くの人々に知っていただき、世の中をよくしたいものと思う」と推薦の言葉を述べている。

## 「親鸞」10巻を発行



御遠忌記念シリーズとして

宗祖親鸞聖人750回御遠忌の記念出版として、シリーズ「親鸞」が筑摩書房から発行された。全10巻で編成されており、大谷大学教授をはじめ、宗門の第一線で活躍する研究者が執筆。10巻それぞれにテーマが設けられ、名畑崇氏の「歴史のなかの親鸞―真実の教えを問う」を皮切りに、第5巻は一楽真氏の





# ひがほんっ子だより



## オアシス保育園

「なかよし畑」ができて15年余りになります。「なかよし畑」の名称は旧園舎から引き継がれた仲良く遊べる庭と畑を意味して子どもたちが名付けた名前でした。今年6月、子どもたちの大好きな「なかよし畑」がリニューアルされ、昨年とは違ったス

9月11日、別院子ども会は、山鼻

## 子ども会

### 「おいしそっ」玉ねぎ収穫



支院のご門徒である大屋久さんの畑で「玉ねぎ収

タイルの畑に生まれ変わりました。完成後「なかよし畑オープンングセラモニー」で、幼稚園・保育園の子どもたちの感想を聞くと「迷路みたいな畑で楽しい」と喜んでもらい、嬉しく思いました。リニューアルに踏み切った理由として、子どもたちに安全な野菜を食べてもらいたいことは勿論のこと、食べ物の育ちを知る能力(生きる力)を育て、特に小さな子どもたちが分かりやすい畑の区画(畑を歩く通路)にして

安全に遊べる環境を作りたいのが目的でした。園庭をデザインして頂いた設計士さんは、自然農法にたいへん詳しい方で、畑の区画に使用された木材は、子どもが触れても安全な木酢漬けの杭に仕上げられています。多くの方のご理解とご協力のお陰で素晴らしい環境づくりができましたことを心より感謝申し上げます。

大谷オアシス保育園  
園長 辻村 静子

穫体験」をさせていただきました。大屋さんから玉ねぎの育て方や収穫の方法、農作機械の説明を受けて、いよいよ畑に移動。畑で収穫待ちの大小さまざまな玉ねぎを一人一人はさみを使い、丁寧に収穫させていただきました。畑では幻の玉ねぎといわれる「札幌黄」も作られています。自分達の手で収穫した玉ねぎをそれぞれ家に持ち帰り、ありがたく食させていただきました。また、今年の別院報恩講にも賄いとして出されます。

### 「たきのの森をまもらナイト!!」に参加



## ボーイスカウト

9月17日からの3日間、道内各地300名のスカウトが集い、「2011カブラリー」が開催されました。当団からは9名のスカウトが参加し、テーマ「たきのの森をまもらナイト!!」のもと、ミュージカル「ライオンキング」の鑑賞やハイキングをはじめとした自然の恵みに触れる体験プログラムを通じて、滝野の森から私たちの住む地球の自然を守る大切さを学ぶとともに、全道の仲間と大いに交流を深めました。そして、スカウト達は、また一つたくましくなりました。

ボーイスカウト  
札幌第9団リーダー 村上 義憲

10月5日、アップル社の創始者であり元会長のステイブ・ジョブズ氏が逝去した。ジョブズ氏が創立したアップル社は2011年、時価総額世界一の企業となった。アップル躍進の最大の原動力となった商品は「iPod」であろう。

「iPod」の普及により、我々の音楽との関わり方は大きく変化した。何枚もCDを持ち運ぶ必要が無くなり、楽曲もネットを通じてデータでの購入が可能となった。「iPod」以前にも似たような製品はあったが「iPod」がここまで普及した背景にはジョブズ氏のプレゼン能力がある。彼のプレゼンは見た者の心に響き、アップルの製品を使いたいと思わせる力があるのだ。如何に優れた製品であっても、送りに手に信念と情熱が無ければ人々には伝わらない。情報化の時代を駆け抜けたジョブズ氏の生き方には我々僧侶も学ぶことが多いのではないだろうか。(Y)

## 編集後記

## さっぽろ東本願寺

発行人 真宗大谷派札幌別院  
輪番 梨谷 哲榮  
札幌市中央区南7条西8丁目  
TEL(011)511-0502  
FAX(011)521-4339  
HP http://www.obigashi.or.jp  
奇数月1日発行  
購読料 一部150円  
年間900円(年6回送料込)  
郵便振替027609130978

札幌別院直参門徒の購読料は、維持金(門徒会費)に含まれます。  
印刷(株)辻孔版社

「ひがほんっ子」とは東本願寺に集う子どもたちを言います。